



## 巻頭言: 始まった所蔵資料目録作り

西川, 榮一

---

**(Citation)**

海事資料館研究年報, 27

**(Issue Date)**

1999

**(Resource Type)**

other

**(Version)**

Version of Record

**(URL)**

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005700>



# 巻頭言（始まった所蔵資料目録作り）

海事資料館館長 西川 榮一

前報（1998（平成10）年版）で海事資料館開館40周年を機会に、長年の懸案であった収蔵資料の目録づくりに取りかかることになったと報告しました。その後作業は着実に進められています。1年経って展示室にある資料の原簿づくりはほぼ終わり、それらについてはそれぞれの資料の解題をつける作業に移りつつあります。これは資料の史的内容がわかっていないとできませんから、当館専門員になって頂いている名誉教授の先生方をお願いしています。一方で、倉庫に保管されている資料の原簿づくりに進もうかという段階です。と書きますとどんどん進んでいるように見えますが、資料の数からいえば倉庫にあるものがずっと多いので、まだまだです。原簿には資料本体の外観写真をつけることにしていますが、この写真撮影が意外に大変で、目録づくりで奮闘していただいている稲垣さんも苦心惨憺しています。しかし電子データベースにして公開し、インターネット上で資料目録を調べられるようにするには、とくに模型などの場合、外観写真はどうしても必要で、手間はとってできるだけ写真をつける方針で稲垣さんに頑張ってもらっています。

所蔵資料の中には書誌資料が結構あります。これについてはすべての資料にとりあえず目を通してみるという骨の折れることを武田幸男先生（本学名誉教授）がなさってくれています。その概況は本年報でも先生が書いて下さっていますが、調べていくと、図書館の蔵書なのか資料館の資料なのか、灰色ゾーンに入っている書誌が結構たくさんあることがわかってきています。本学所蔵の「海事に関する史的資料」は本学が学外に発信できるユニークな学術情報の1つと考えられます。それらは海事資料館資料ばかりでなく、もちろん図書館所蔵書誌にも少なからず含まれているはずですが、それらも合わせて整理されれば（なかなか大変な課題ではありますが）、意義ある学術情報としてまとまったものになるでしょう。上に述べた灰色ゾーンにある書誌を、資料館か図書館か、どちらで登録すべきなのか悩ましい問題ですが、うまくやらないと情報が分散して調べにくくなるかもしれません。両方の電子データベースができあがってから考えた方がよいのでは、と思われれます。

それにしても、一つのことを手がけるとつぎつぎ課題が出てきます。それだけ本学の教育研究活動も歴史的蓄積が増えてきたと思えば頼もしい限りですが、しかし昨今の、毎日のルーチン仕事に追われるような大学では、このような地道な学術情報データベースの整備といったことには、頭も時間もなかなかまかせませんし、ましてそのために予算や人をつけることも困難です。大学はもっと余裕のある雰囲気がないと根のしっかりした文化の形成に寄与できないのではないかと。目録づくりに参加しながら、このように感じる今日この頃です。